

文人画家・田能村直入の4作品を 市登録有形文化財に 登録を記念した展示会も実施

◎写真あり(枚方市文化財課提供)

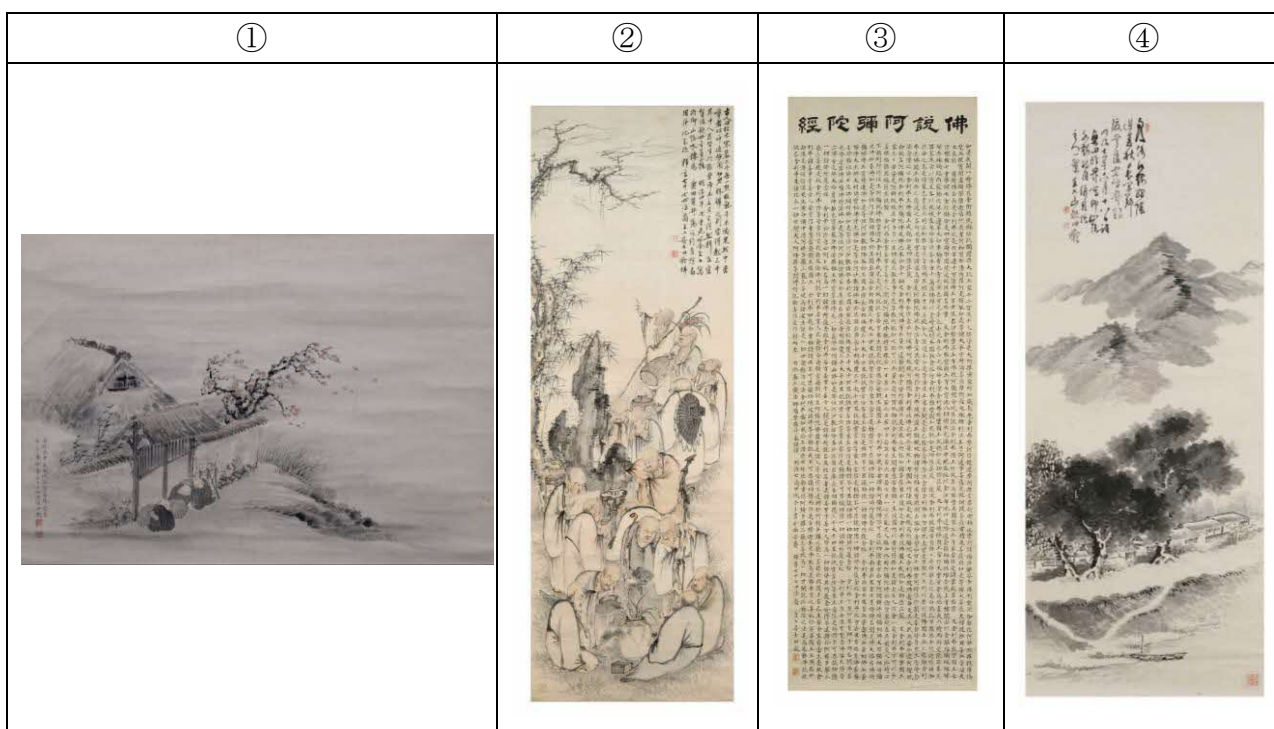
市は令和6年3月1日付で、市が所蔵する田能村直入の書画4作品(「十六羅漢像」ほか3点)を「田能村直入関係資料(奥田家旧蔵)」として市の登録有形文化財に登録した。田能村直入は、幕末から明治期にかけて活躍した文人画家で、枚方宿の富裕な家に滞在し、宿泊や飲食のお礼として即興で制作した書画を残した。今回登録した作品群も、江戸時代に枚方宿の庄屋・宿役人を勤めた家が所有していたもの。幕末から明治期の京街道沿いの裕福な町人の生活文化をうかがわせる貴重な歴史資料であることを評価した。

- ★「文化財の指定」とは、重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行う制度。それに対し、「文化財の登録」は、届出制と助言等を基本とした、より幅広い緩やかな保護の網をかけるもので、市では、地域の歴史にとって欠くことのできない文化財を保護するとともに市民の郷土への理解と愛着の増進を図るため、平成25年に市独自の登録制度を制定した。今回の登録により、枚方市登録文化財は5件となる。
- ★一括登録する書画4点は、江戸時代に枚方宿三矢村の庄屋・宿役人を勤めた奥田家が所有していた作品で、平成10年に枚方市が寄贈を受けたもの。幕末から明治期の京街道沿いの裕福な町人の生活文化をうかがわせる貴重な歴史資料であることを評価した。
- ★登録を記念し、令和6年4月3日から5月6日までの間、総合文化芸術センターひらしん美術ギャラリー向かいの市所蔵作品展示スペースにおいて作品を公開予定。
- ★田能村直入は文化11年(1814)豊後国直入郡竹田(現:大分県竹田市)の出身で、9歳の時に文人画家の田能村竹田に師事し詩と絵画を学んだ。天保5年(1834)、竹田とともに大坂に移り、大塩平八郎の私塾「洗心洞」に入塾して陽明学を学ぶ。竹田の死後は、大坂・堺や京都を拠点に文人画家として活躍し、明治40年(1907)に94歳で亡くなった。

画家としてだけでなく、明治11年に画学校の設立についての建白書を京都府に提出し、現在の京都市立芸術大学の前身である京都府画学校の初代撰理（校長）を務めたほか、明治24年には南宗画学校を設立するなど、後進の育成にも尽力し、関西の絵画界に大きな足跡を残した。

★今回登録する書画4作品の概要は次のとおり。

- ①「親鸞上人枕石図」(安政7年：紙本墨画淡彩)
- ②「十六羅漢像」(明治4年：紙本墨画淡彩)
- ③「佛説阿弥陀経」(明治7年：紙本墨書)
- ④「仰山臨水楼瞩目図」(明治7年：紙本墨画)



<参考>他の市登録文化財

名 称	種 別	登録年月日
そうざ つじ どうひょう 宗左の辻の道標	有形文化財	平成 26 年 4 月 1 日
めいじ じゅうはちねんこうずいひ 明治十八季洪水碑		平成 26 年 4 月 1 日
にんみょうてんのうがいそぼぞうしょういちいたぐちしのほか 仁明天皇外祖母贈正一位田口氏之墓	記念物	平成 26 年 4 月 1 日
さんのみやじんじゃ あまごいへんれい いしとうろう 三之宮神社の雨乞返礼の石燈籠	民俗文化財	平成 30 年 9 月 1 日

<お問い合わせ>

観光にぎわい部文化財課 ☎ : 841-1411 FAX : 841-1278